

5月から 第2、4木曜日 消化器内科で 井上 拓也 先生 炎症性腸疾患(IBD)外来診療開始



井上 拓也 先生

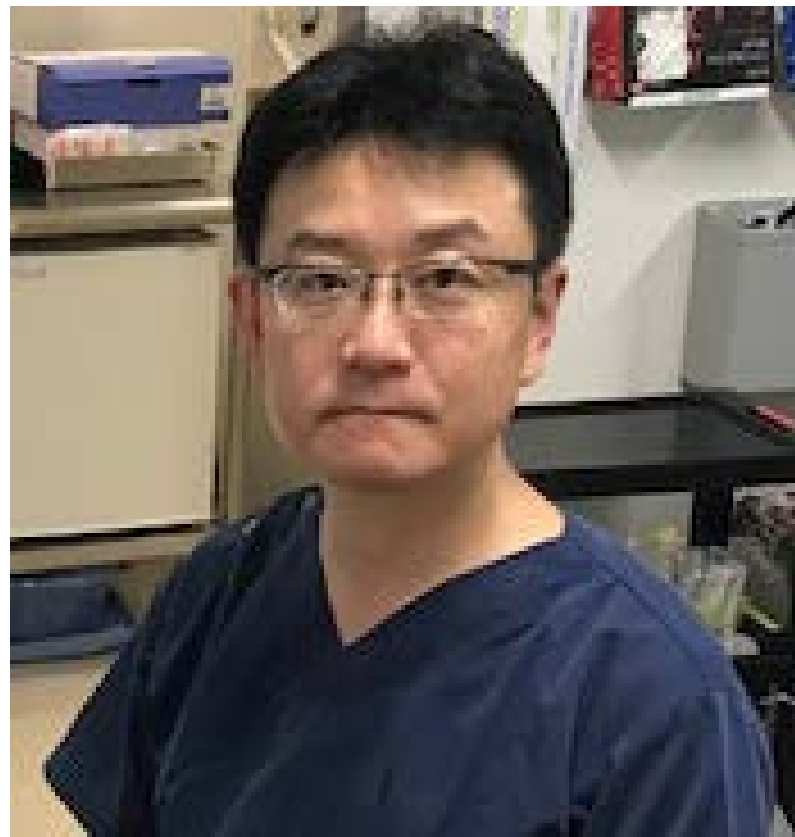
【診療開始】 H31.5～

【外来診療】 「第2・4木曜日」13:00～16:00

【内視鏡】 「毎週木曜日」9:00～12:00



5月から 第2、4木曜日 消化器内科で 井上 拓也 先生 炎症性腸疾患(IBD)外来診療開始



井上 拓也 先生

①炎症性腸疾患 (IBD)とは？ (潰瘍性大腸炎、クローン病)

炎症性腸疾患 (inflammatory bowel disease: IBD)とは、主に消化管 (腸)に原因不明の慢性的な炎症を起こす疾患で、主に潰瘍性大腸炎 (Ulcerative Colitis: UC)、クローン病 (Crohn's Disease: CD)に代表されています。日本でも生活の欧米化とともに増加している疾患です。

その原因はいまだに不明で病状が慢性化 (良くなったり、悪くなったりを繰り返す)しやすいため、気長にコントロールを行う必要があります。



5月から 第2、4木曜日 消化器内科で 井上 拓也 先生 炎症性腸疾患(IBD)外来診療開始



井上 拓也 先生

②炎症性腸疾患(IBD)の症状は？

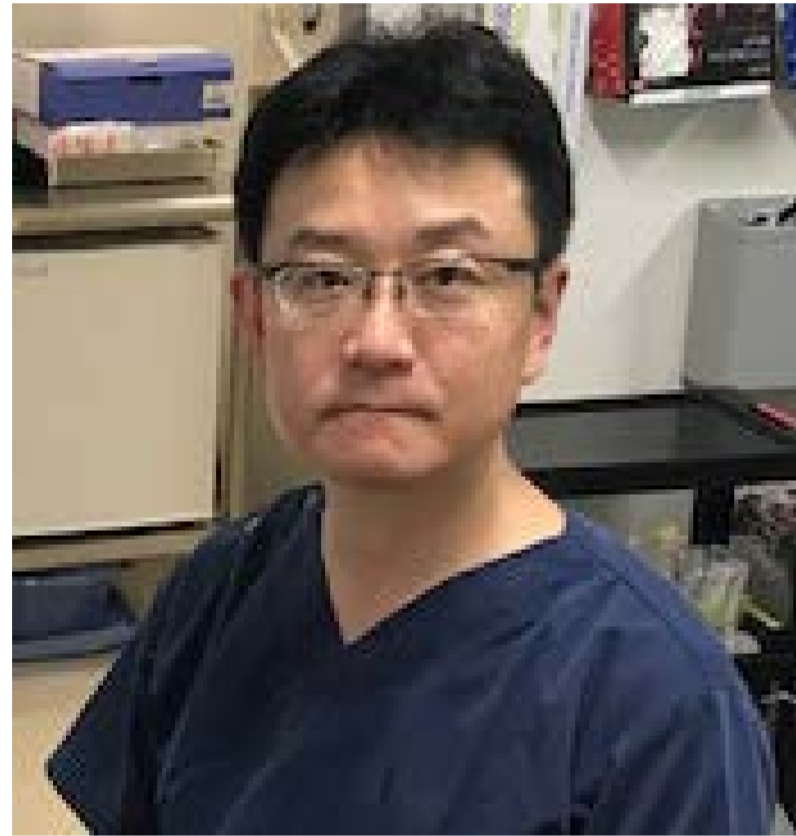
代表的な症状としては、持続性(常に続く)または反復性(症状を繰り返す)の粘血便、血便が主で、下痢、腹痛、発熱、体重減少、嘔気、嘔吐、貧血などを伴います。症状が強い活動期と、ほとんど無い寛解期があります。

③炎症性腸疾患(IBD)の発症年齢は？

初発時(はじめて症状が出る時)は15歳から35歳までが多く認められますが、最近では小児や、50歳以上の方にも発症することがあります。



5月から 第2、4木曜日 消化器内科で 井上 拓也 先生 炎症性腸疾患(IBD)外来診療開始



井上 拓也 先生

④ 炎症性腸疾患(IBD)の検査方法は？

まずは、症状をお聞きして疾患の可能性があるかを判断します。続いて、S状結腸や全大腸内視鏡検査を実施して本疾患に特有な粘膜病変がないかを確認します。また、その際に生検(粘膜を採取して、顕微鏡的に病変を確認する)や培養(感染性:細菌による炎症を除外する目的)を合わせて行うこともあります。

⑤ 炎症性腸疾患(IBD)の治療方法は？

潰瘍性大腸炎、クローン病と診断された場合は、病気の広がっている範囲や炎症の度合い、重症度に応じてさまざまな治療方法があります。その状況に応じた、適切な治療が良好なコントロールを得るうえで重要となります。



5月から 第2、4木曜日 消化器内科で 井上 拓也 先生 炎症性腸疾患(IBD)外来診療開始



井上 拓也 先生

⑥炎症性腸疾患(IBD) 外来を設置

IBDの良好なコントロールを得るには、前述しましたが適切な治療方法の選択が重要になります。そのためには、治療経験が豊富であることが大切です。

当院では経験豊富な医師が、治療、病状コントロールをさせていただいております。

まずは、上記症状を繰り返す方は一度、外来診察でご相談ください。

